

MURC Focus

右派回帰の流れが強まるドイツ

～新政権は保守世論にどう寄り添うのか～

調査部 副主任研究員 土田 陽介

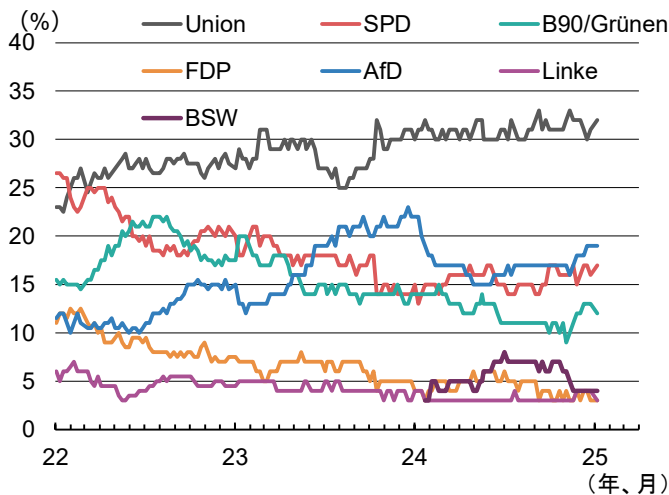
- ドイツは2月23日に前倒して総選挙を行う。最も可能性が高い展開は、中道右派の Union が首班となり中道左派の SPD と大連立を組むシナリオである。
- 他方で、ドイツと関係が深い隣国のオーストリアでは、大連立構想が崩壊してしまった。極右政党の FPÖ が首班となる新政権が成立しなければ、再選挙となる可能性が高い。
- 首班が Union となり、AfD の人気は物語るようにドイツの有権者の間で保守化が進んでいる現状に鑑みれば、SPD が Union に寄り添う必要がある。それが SPD にできるかどうかは政権運営の安定のカギとなる。

1. 右派政党への支持が集まる

ドイツは2月23日に前倒して総選挙を行う。2023年の選挙制度改革に基づき、今回争われる下院(連邦議会)の定数は630議席となった。ドイツの総選挙は小選挙区比例代表併用制で行われるが、おおむね世論調査の動きと連動した議席配分となる。そこでドイツの主要政党の支持率調査を確認すると、中道右派の Union (キリスト教民主同盟及び同社会同盟)が首位となっているが、支持率は32%程度である(図表1)。

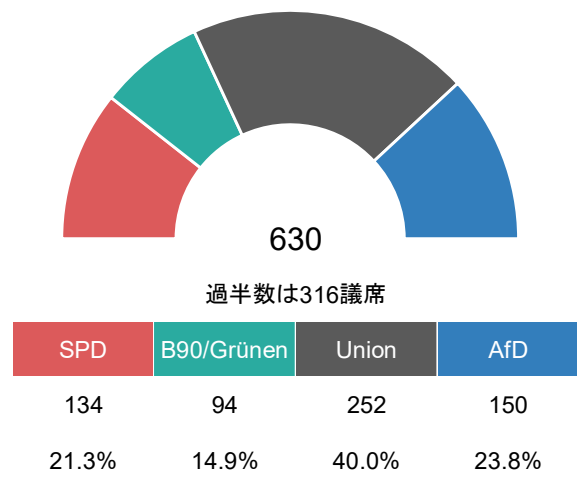
第二位につけているのが、極右政党の「ドイツのための選択肢」(AfD)である。AfDの支持率は2024年に入って一度低下したが、年末にかけて上昇した。この間、AfDから支持を奪ったのが、左派保守を掲げる新興政党の「ザーラ・ワーゲンクネヒト同盟」(BSW)である。BSWは24年年明けに左派党(Linke)からスピンオフした政党で、その過激な主張が一時は有権者の支持を集めたが、年末には失速した。

図表1. ドイツの主要政党の支持率の推移



(出所) Forsa

図表2. ドイツ下院の予想議席配分



(注) 1月6日調査時点
(出所) Forsa

現在の与党である中道左派の社会民主党 (SPD) は 17% 程度で第三位に、また SPD と連立を組む環境左派の「同盟 90/緑の党」(B90/Grünen) が 13% 程度で第四位に付けている。しかし両党を合わせても最大野党の Union に及ばないため、次期総選挙を経て成立する新政権は Union が首班となることが確実な情勢となっている。一方で、Union を始めとする主要政党のいずれもが AfD との連立を否定している。

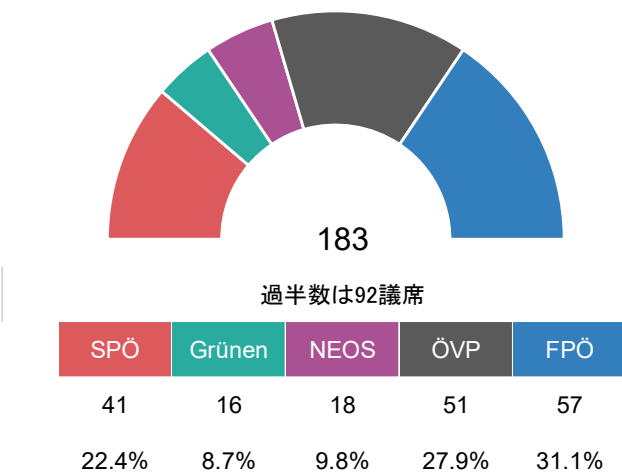
したがって、Union は少数与党となるか、AfD を除く政党と連立を模索することになる。最も可能性が高い展開は、Union が SPD と大連立を組むシナリオである。Forsa の 1 月 6 日時点の調査によれば、Union は 252 議席を得て、SPD は 134 議席を得る予想であるため、両党で 386 議席と議会の過半数 (316 議席) を大幅に超える。とはいえ、右派傾向を強める Union と左派傾向を強める SPD が本当に協力できるかという疑問は残る。

2. オーストリアで瓦解した大連立政権

他方で、ドイツと関係が深い隣国のオーストリアでは、大連立構想が崩壊した。オーストリアでは 2024 年 9 月に総選挙が実施され、カール・ネーハマー首相が率いる第二党の中道右派の国民党 (ÖVP) と中道左派の社会民主党 (SPÖ) を軸とした連立交渉が行われてきたが、合意できずに決裂した。そのためアレクサンダー・ファンデアベレン大統領は、第一党である極右政党の自由党 (FPÖ) のヘルベルト・キクル党首に組閣を要請した。

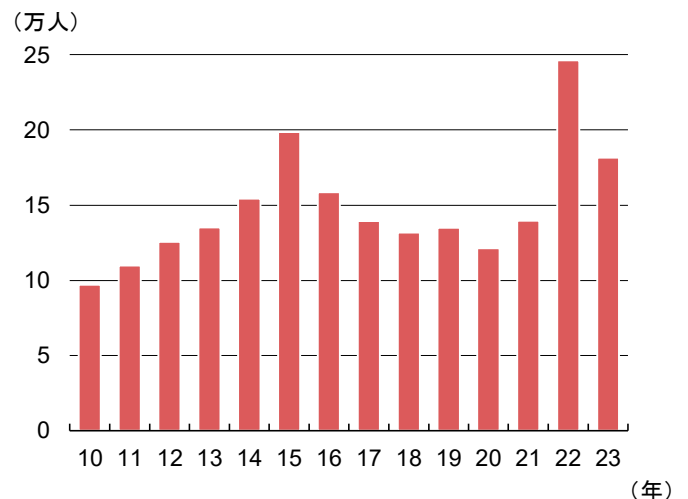
国民議会 (下院) の構成を確認すると、ÖVP と SPÖ、そして中道の自由主義政党 NEOS による大連立が成立していれば、合わせて 110 議席となるため過半数 (92 議席) を超えた。しかし交渉が決裂したため、今後は FPÖ を首班とする連立政権が模索されることになる。FPÖ と ÖVP による連立政権が成立すれば 108 議席となるため、過半数を超える。また ÖVP のクリスチャン・ストッカー党首は、FPÖ との連立交渉に前向きとされる。

図表3. 24年総選挙を受けたオーストリア下院の議席配分



(出所) オーストリア国民議会

図表4. オーストリアに流入する移民の数



(注) 外国籍に限る
(出所) オーストリア統計局

一方で、FPÖ と ÖVP による連立交渉が失敗すれば、再選挙となる可能性が高まる。とはいえ FPÖ が引き続き第一党となる展開に揺るぎはなく、FPÖ を排除したかたちでの連立工作のハードルはむしろ上がることになる。また FPÖ を政権から排除することは、FPÖ を支持する有権者を刺激し、オーストリアで政治不信が高まる結果を招く恐れがある。

FPÖ が支持を集めている理由の一つに、急増する移民(難民)に対する有権者の不満がある。オーストリアに入国する移民の数は、2022年に約 25 万人と、ヨーロッパが難民危機に揺れた 15 年(約 20 万人)を大きく超えている(図表 4)。23 年は約 18 万人とやや減少したが、水準は依然として高い。急増する移民に対して有権者は不満を募らせており、移民対策の厳格化を訴える FPÖ の人気につながっている。

中道右派の ÖVP も移民対策の厳格化を訴えるが、有権者の支持はより過激な主張を展開する FPÖ に集まっている。オーストリアもスタグフレーションに陥っており、経済の不振が続いているが、ÖVP 政権はこうした状況を打破できなかった。こうした事実も、有権者の離反につながっている。一連の構図は、ドイツにおける AfD 人気と共通するところであり、大連立に向けた交渉が失敗した場合、情勢が混沌とすることを予見させるものである。

3. 大連立が安定するかがカギ

ドイツの次期政権は大連立となる可能性が高いが、極右政党である AfD の排除という「大同」の下で、経済観の違いという「小異」を捨てることができなければ、大連立は安定しない。AfD の人気が物語るようにドイツの有権者の間で保守化が進んでいる現状に鑑みれば、大連立には SPD が Union に寄り添う必要がある。それが今の SPD にできるかどうか、大連立安定のカギを握る。

そもそも、オーストリアと同様に、ドイツでも大連立の交渉それ自体が破たんする展開も否定できない。この場合、Union が AfD を除く他の政党と連立を組むとしても、政権運営の安定は望みがたい。AfD の躍進にも民意を反映している事実がある中で、本当に AfD を組閣協議から外すことが正しいかは評価が分かれるが、一方で SPD が Union に寄り添うことができないようでは、ドイツで政権運営の安定など望めない。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。